

同世代の語り部を招いた  
伝承勉強会  
2019/12/20

E9148 菊地亜衣奈

E9153 福田みずほ

# 勉強会の様子

2019年12月20日 宮城教育大学構内にて



お話しいただいたこと

- 1 災害列島・日本
- 2 東日本大震災の記憶
- 3 「次」の災害に眼差しを



語り部 雁部 那由多さん(20)

宮城県東松島市育ち 大曲小学校で被災  
5年前から語り部活動を始め  
災害社会学を専攻

ゼミ生含め学生20名弱ほどが参加  
貴重なお話を聞くことができた

## 災害列島・日本

地震

津波

台風

落雷

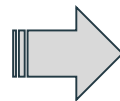
洪水

噴火

# 東日本大震災の記憶

大曲小学校 海から2.3km

東日本大震災発生 縦揺れ：地鳴りのような音と小さな振動  
<ピタッとやんだ後> 横揺れ：爆発のような衝撃と大きな揺れ



約6分間

揺れが小さくなった後グラウンドへ一時避難→マニュアル通り保護者へ子供の引き渡しを進める

**※このとき津波警報は出ているが、防災無線が故障したためサイレンを聞くことができなかった**

消防無線機で津波警報を聞き、学校へ戻り図書館へ二次避難

雁部さんは下駄箱へ行くため一階に降り、外から学校へ逃げてくる大人たちを目撃  
海と約290m離れた川、双方向からの津波

☞伸ばされた手を取ることができなかった罪悪感

# 東日本大震災の記憶

震災後、大曲小学校はそのまま開設  
子供達が自分で役割を持ち、避難所生活で活躍

4/21 1ヵ月10日ぶりに学校再開

内陸部に住んでいる子供と沿岸部に住んでいる子供との間で**心のギャップ**

☞ 友達関係が両者2つに分離

大地震 大津波 緊急地震速報音 マグニチュードという言葉が禁句に

☞ **皆が不安になるから、震災の話をしてはいけないという先生からの指示**

## 語り部の活動

2014/3/11 みやぎ鎮魂の日シンポジウムで初めて震災の話を聞き、自分も話す

☞先生「（震災の話をして）大丈夫だよ」

☞話を聞いてもらおうと楽になった 向き合うことができた 言語化できた

☞本当は誰かに聞いて欲しかった

災害列島・日本で生きる

**“災間を生きる”**

# 勉強会での学び・感想

研究職の人たちが考えたことが  
下まで伝わってこないと意味が  
ない。  
私は伝えることを頑張りたい！

避難をする手段、材料が足  
りていないということを改  
めて感じた。学びたいと思  
った。

『災間を生きる』が共通  
認識としてみんなが持て  
たら、意識の差がなくな  
るのかなと思った。

『災間を生きる』、震  
災を経験していない子  
たちにどうやって伝え  
るかを考えていきた  
い。

何が起きたかを知るのも  
大事だが、それと同じく  
らい命を守るための思考  
回路「逃げる」というの  
をしっかりと伝えたい。